

1. 単元構成・計画

教科名	技術・家庭科 家庭分野	学年	1 年	時期	9～10 月	
単元名	生活を豊かにするものの製作					
目標	知識及び技能	製作する物に適した縫い方について理解し、用具を安全に取り扱い、製作が適切にできること。				
	思考力、判断力、表現力等	生活を豊かにするために布を用いた物の製作を工夫すること。				
	学びに向かう力、人間性等	よりよい生活の実現に向けて、生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする事。				
評価	評価の観点	評価規準			評価材料	
	知識・技能	製作する物に適した縫い方について理解しているとともに、用具を安全に取り扱い、製作が適切にできる。			○製作物 ●線縫い画用紙 ○●裁縫実習日誌 ●CBT	
	思考・判断・表現	生活を豊かにするための布を用いた物の製作について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。			○製作物 ○●裁縫実習日誌	
	主体的に学習に取り組む態度	よりよい生活の実現に向けて、生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。			●線縫い画用紙 ○●裁縫実習日誌	
指導と評価の計画					評価計画	
時数	ねらい			知	思	主
1	小学校の既習事項を想起し、ミシンを適切に操作できるかの確認を行う。			●○	●	●
2	ミシンに触れる回数をできるだけ増やし、直線縫いについて試行錯誤させる。			●○	●○	●
3	効率的かつ適切なミシンによる直線縫いの技能を習得させる。			●○	○	●
4	直線縫いを習得し、切り返しについて試行錯誤させる。			○	○	○
5	ミシンによる切り返しを用いた縫い方の技能を習得させる。			○		○
6～15	実際の布を使用した「ウォールポケット」の製作			○	○	○

※○主に評定に用いる評価 ●主に学習改善につなげる評価

2. 指導計画における学習履歴を利活用した活動について

1	<p>&lt;スプレッドシートを活用した裁縫実習日誌&gt;</p> <p>毎時間、実習記録を文章で記述し積み重ねて記録することにより、「いつ」「何を」「誰から」「どのようにして」という学習履歴ができていく。それを生徒自身で繰り返し閲覧したり、交流したりすることにより、さらなる定着と自身の新たな課題の発見につながっている。</p>
2	<p>&lt;クラスルームにおいて成果物の評価を点数化&gt;</p> <p>直線縫いに使用した画用紙を事前にループリックで提示してある評価規準に沿って点数化し、それを生徒から見えるように入力しておく。そうすることで、自分が現在どの程度、評価における点数を獲得しているのかが蓄積されて見えるようになっている。</p>

### 3. 単元の流れ

時数	学習活動	評価方法・評価基準など	指導上の留意点
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CBTによる小学校既習事項の確認</li> <li>・ミシンによる画用紙縫いの練習</li> <li>・教師から生徒による個別評価</li> <li>・生徒同士の学び</li> </ul>	<p>&lt;Bの評価規準&gt;</p> <p>知技:8点以上(15点満点)</p> <p>知技:縫い始めと縫い終わりの返し縫いができ、線に沿って縫うことができている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疑問を持たせる</li> <li>・生徒同士の交流を促す</li> </ul>
		<p>&lt;Cの生徒への手だて&gt;</p> <p>知技:教科書P200による復習提案</p> <p>知技:個別指導、裁縫実習日誌のコメント記入</p>	
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミシン操作をより正確・効率的に行うための知識習得</li> <li>・ミシンによる画用紙縫いの練習</li> <li>・生徒同士の学びと深め合い</li> </ul>	<p>&lt;Bの評価規準&gt;</p> <p>知技:縫い始めと縫い終わりの返し縫いができ、線に沿って縫うことができている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢、環境、動作の知識を補完</li> <li>・「ただ縫う」から「効率よく縫う」に意識を変える</li> </ul>
		<p>&lt;Cの生徒への手だて&gt;:</p> <p>知技:個別指導、裁縫実習日誌のコメント記入</p>	
3 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミシンによる画用紙縫いの習得</li> <li>・直線縫い画用紙の提出</li> <li>・生徒同士の学びと深め合い</li> </ul>	<p>&lt;Bの評価規準&gt;</p> <p>知技:縫い始めと縫い終わりの返し縫いができ、線に沿って縫うことができている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技と評価を何度も繰り返し試行錯誤させる</li> </ul>
		<p>&lt;Cの生徒への手だて&gt;:</p> <p>知技:個別指導、裁縫実習日誌のコメント記入</p>	
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミシンによる画用紙縫いの習得</li> <li>・直線縫い画用紙の提出</li> <li>・ミシンのやり直しについて理解する</li> <li>・やり直しの練習</li> <li>・生徒同士の学びと深め合い</li> </ul>	<p>&lt;Bの評価規準&gt;</p> <p>知技:縫い始めと縫い終わりの返し縫いができ、線に沿って縫うことができている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やり直し縫いについて導入</li> <li>・直線縫い画用紙の提出締切後、評価</li> </ul>
		<p>&lt;Cの生徒への手だて&gt;:</p> <p>知技:個別指導、裁縫実習日誌のコメント記入</p>	
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミシンのやり直し技能の習得</li> <li>・やり直し縫い画用紙の提出</li> <li>・生徒同士の学びと深め合い</li> </ul>	<p>&lt;Cの生徒への手だて&gt;:</p> <p>知技:個別指導、裁縫実習日誌のコメント記入</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やり直しは応用であることを意識</li> </ul>
		<p>&lt;Cの生徒への手だて&gt;:</p> <p>知技:個別指導、裁縫実習日誌のコメント記入</p>	
6 ～ 15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウォールポケットの製作</li> <li>・裁縫実習のまとめ</li> </ul>	<p>&lt;Bの評価規準&gt;</p> <p>知技:縫い始めと縫い終わりの返し縫いができ、線に沿って縫うことができている他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校からの既習事項、本単元で学習した知識、技能を発揮できるようにする。</li> </ul>
		<p>&lt;Cの生徒への手だて&gt;</p> <p>知技:個別指導、裁縫実習日誌のコメント記入</p>	

#### 4. 本時案

(1)本時のねらい		
知識及び技能	効率的かつ適切なミシンによる直線縫いの技能を習得させる	
思考力,判断力,表現力等	ミシン操作における自己の良い点や問題を見だし、解決策や考察をことばや文章で表現させる	
学びに向かう力,人間性等	直線縫いを繰り返すことで、主体的に実習に参加し何度も評価を受けることで自己調整をさせる態度を育成する	
(2)学習の展開		
学習活動	教師の働きかけ	指導上の留意点 ●・○評価の方法
1. 始業あいさつ 2. 前時の実習日誌より本時の内容確認	1. 始業あいさつ 2. 日誌より前時の想起と本時の促し	・見通しをもたせる
本時の内容:直線縫いを極めよう(効率的かつ適切なミシンによる直線縫いの技能の習得)		
3. 画用紙を受け取り実技の開始 4. 評価、助言を受けに来る 5. 試行錯誤しながら何度も取り組む	3. 机間巡視等による実技指導 4. その場で評価、助言を行い学習改善 5. 必要に応じて助言	●○机間巡視 画用紙の評価 ●様子観察
6. 裁縫実習日誌に本時の様子を記録 7. 次時予告 8. 終業あいさつ	6. 本時の記録を残すように指示 7. 次時予告(本時の続き・切り返し) 8. 終業あいさつ	○日誌記述内容
(3)主に学習改善につなげる評価と改善の手だて		
知識・技能	C (手だて)	ミシンによる直線縫いが上手いできない原因を細かく示し、複数ある場合は1つずつ改善していくような道筋を示す
主体的に学習に取り組む態度	C (手だて)	小さな成功体験を積み重ねられるような個別の声掛けを行うとともに、実習日誌のコメントにおいても成功した点を取り上げ、次につながるような言葉を文章にて残す
(4)主に評定に用いる評価と改善の手だて		
知識・技能	A	縫い始めと縫い終わりの返し縫いが正しくでき、線に沿って真っ直ぐに縫うことができている
	B	縫い始めと縫い終わりの返し縫いができ、線に沿って縫うことができている
	C (手だて)	ミシンによる直線縫いが上手いできない原因を細かく示し、複数ある場合は1つずつ改善していくような道筋を示しながら、傍について個別に指導する
思考・判断・表現	A	自分の作業内容を詳細に振り返りながら本時の取り組みを評価・改善し、考察したことを論理的に表現することができている
	B	自分の作業内容を振り返り、本時の取り組みの反省や感想を基に表現することができている
	C (手だて)	本時における課題を教師側から示し、それについての感想や反省を想起させ本時の様子を文章にて表現させるよう日誌のコメント欄にて助言する